

鳥獣保護センターには時々、釣り人が不用意に捨てた釣り糸がからまった野鳥が運ばれてきます。

釣り糸はとも丈夫で、鳥は自分で切ることができません。もがくたび徐々に体に食い込み、血が通わなくなった部分はやがて腐ってしまいます。

釣り針も硬く頑丈で、釣った魚を

釣り糸捨てないで

逃さないための「かえし」がついているので、一度刺さるとなかなか抜けません。くちばしに刺さったり、飲み込んだりしてエサが食べられないこともあります。

痛みと飢えに耐えた鳥たちが運ばれてくる頃には、重症化していて助からないことが多く、その度にやるせない気持ちになります。

人間が捨てたごみが野生動物の命を脅かしてしまう

なんて悲しいですね。釣りはぜひマナーを守って楽しんでほしいものです。(見浦沙耶子)



釣り針を飲み込んだウミネコ



海岸清掃で回収された釣り糸